

【吉見町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

第6次吉見町総合振興計画の基本計画の中で、学校教育に向けた主要施策として「時代の変化に対応する教育」「一人ひとりの個性に合わせた指導・教育」を掲げており、1人1台端末を通して、子どもたちがそれぞれの夢の実現に向けて、安心して学び、充実した学校生活を送ることができる環境の整備を図っていく。

- (1) ICT機器とストレスの少ない高速通信網を活用して指導や教材等の工夫を行い、児童生徒個々の興味・関心・学習到達度等を十分に踏まえた、「個別最適な学び」を提供する。
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現のため、タブレット端末を活用して、これまでに習得した知識・技能を使い情報を集め思考・判断する学習活動や、自分の考えをまとめて表現する活動、課題解決に向けて子ども同士での協働学習を推進していく。

2. GIGA第1期の総括

本町では令和2年度に児童生徒と教職員に対して、1人1台タブレット端末と、校内のWi-Fi環境設備を整備した。導入初期のサポートとしてGIGAスクールサポーターを活用し、令和4年度からはICT支援員を配置して、教職員や児童生徒、教育委員会に対してICT全般のサポートを行っている。導入初期においては、短期間での環境整備を求められていたため、タブレット端末やネットワークに想定外の不具合が度々発生するなど、運用面に課題があった。また、現状では教職員のICT活用能力に個人差があり、アプリケーション等を効果的に活用できていないケースも散見されている。そのため、GIGA第2期では全ての教職員が効果的に活用できるよう、ICT活用能力に応じた研修を実施するなど、メーカー等と連携を図りながら課題解決に向けた対応を検討する必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機を含め、端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下の方策を推進する。

(1) 「主体性・創造力の養成」

タブレット端末を活用して、興味・関心のある事象に対し、様々なデジタルコンテンツやソースを活用しながら主体的に学ぶことができる能力と、ICT技術を用いて自身のアイデアを表現する創造力の養成を目指す。(資料や動画等を参照しながら同時にレポートを作成するマルチタスク、友達と撮影した動画や画像の加工、生成AIの活用など)

(2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

理解度や学習進度に合わせた個別最適な学びと、「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」といった協働的な学びについて、端末を利活用した学習課題に取り組む機会の充

実を図る。（協働学習アプリの積極的な活用など）

（３）「学びの保障」

不登校児童生徒に対して、タブレットを活用した授業への参加・視聴の機会を提供しているが、中継型のためコミュニケーションにおいてFace to Faceと異なる部分もある。また、外国人児童生徒や特別な支援を要する児童生徒には、個々の実態に応じた対応が必要になることから、ICT技術を活用したインタラクティブなやり取りをするための手法（双方向型の授業、健康観察・教育相談アプリの導入など）について、事業者等と連携を図りながら検討を行う。